

た。

その他、小中合同の研修として、次のことを行っている。

①教育講演会(五月)

・演題「諸外国から見た日本の教育方法について」

・講師 赤堀侃司氏

白鷗大学教育学部長

東京工業大学名誉教授

②学校経営実践発表(六月)

・小中で三名が発表

③全連小や全中連等の報告会や四専門部での話し合い

〔栃木地区〕

本地区では、研究主題を「学力を高めるための家庭・地域との連携」・家庭・地域の教育力の活用についての考察として研修を進めてきた。

全体を二班に分け、各学校の特徴・実践例や取組について紹介し、意見交換をした。今年度から「とちぎ未来アシストネット事業」のスタートもあり、七月には、地域との連携・ボランティア導入状況アンケートを実施して実態の把握をした。

十一月の校長研修会では、小中合同で、下都賀総合病院

脳神経外科部長の下枝宣史先生より「第四十三次南極地域観測隊に参加」・究極の僻地医療」と題して講話をいただいた。

〔塩谷地区〕

本地区では、今年度の研究主題を「豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成を目指す学校経営の充実」とし、各市町が地域の実態を踏まえて研修を行っている。また、地区の全体研修は、年二回実施している。

七月の研修は、「とちぎ教育振興ビジョン(三期計画)総論を中心に」と題して、県総務課の横須賀好市先生から総論作成に至る「裏話」も含めて、興味深く分かりやすい講話があった。また一月末には、各市町校長会ごとに研修成果の発表を行い、マニ株式会社取締役特別顧問の松谷正光様から経営戦略等に関わる講話を予定している。

〔那須地区〕

本地区では、今年度から研究のテーマを「ふるさとを愛

し、夢や希望に向かって力強く歩む子どもを育てる学校経営」とし、大田原市・那須町・那須塩原市の三市町ごとに研究主題を設定して研究を開始した。

第一年次の研究成果は、十一月の小中合同の全体研修会で提案発表し、分科会で市町や小中の校種を越えて活発な協議が行われた。

また、この全体研修会では、(株)ブリヂストン栃木工場長の塚越哲人氏を招き、グローバル社会に対応する人材育成の重要性について、企業経営の視点から示唆に富む講話をいただき、研修を深めることができた。

〔南那須地区〕

本地区では、研究主題を「豊かな表現力やコミュニケーション能力を育てる外国語活動の推進」とした。新しく導入された外国語活動について、問題点を洗い出し、問題解決のために校長としてどう関わり、どうリーダーシップを発揮していくか研究を進めてきた。

年四回全体研修会を実施し、研究主題をもとにグループ討議や全体協議を繰り返している。同時に、全連小奈良大会や関プロ群馬大会の参加報告も行った。

十一月の研究大会では、宇都宮大学の渡辺浩行教授をお迎えし、「外国語活動の現状と課題」について具体的な実践事例を交えたお話を聞き、多くを学ぶことができた。

〔佐野地区〕

本市では、昨年より、これまでの研修方法を見直し、四つの委員会をもち、小中合同で研修を行っている。内容は、特色ある学校づくり委員会、学力・体力向上委員会、児童生徒指導委員会、学校安全委員会を設け、教育の今日的課題、学校が当面する喫緊の課題に対して実効性のある対応をしていくにはどうしていくかについて話し合いを深めてきた。

講演では、「災害から学んだこと」と題して、前市貝町立市貝中学校長の石川一夫先生の講話をいただいた。昨

年三月の大地震の被害からどのように生徒の安全確保と施設設備の維持等に対応してきたかについて具体的な話を伺うことができ、とても参考になった。

〔足利地区〕

本地区では二十五年間、「生涯学習の立場に立った小学校教育の充実」を主題に、研修を継続してきている。これを基盤に、今年度から「学力を高め、信頼される学校づくりの充実・深化を目指す学校経営」を課題とし、新たに設定した二つのテーマ、「教育課程の充実」及び「防災教育の充実」について、班別に研究を進めることとした。三年計画の一年目として、発表会をもってそれぞれの進捗状況等を確認し、次年度に向けての協議も行った。

また、中学校長会と合同で、実践事例による人権教育研修や、講話による研修(行政担当者による「防災計画」、弁護士による「学校に係る諸問題と法律」説明)も行うことができた。